





本日お話しすること

ロオンラインプラットフォームと非国家アクター

□Race to Zero – 宣言から実行へ



オンラインプラットフォームと 非国家アクター



非国家アクターの参加

PLATFORM for REDESIGN 2020

Online Platform on Sustainable and Resilient Recovery from COVID-19



ロ ビデオ/文章でのメッセージ提出

→ プラットフォームウェブサイトで、少なくとも来年11月までは公開

ロ 閣僚級会合の中で議論したい質問の提出

- 第三部で、非国家アクターが登壇し、提出された質問を基に第一部、第二 部の登壇者とディスカッションを行う予定
- 9月1日時点のアジェンダによると、ホストはCOP25の気候行動ハイレベル・チャンピオンであるゴンザロ・ムニョス氏



気候変動イニシアティブ

気候変動イニシアティブ(JCI)は文章メッセージを提出



Japan needs to advance "Green Recovery" tackling climate crisis

The Japan Climate Initiative (hereinafter referred to as "JCI") is a coalition of non-state actors established in July 2018 by Japanese companies, local governments and NGOs that pledge to stand at the forefront of global challenges in order to realize the decarbonized society envisioned by the Paris Agreement.

JCI comprises of nearly 500 diverse non state actors that are playing active role in addressing climate change, such as large companies leading the Japanese economy, small and medium-sized enterprises supporting the local communities, local governments, religious groups, consumer groups, universities, think tanks, environmental NPOs/NGOs, etc. The total amount of greenhouse gas emissions and population of JCI members accounts for more than one-third of Japan's total.

As collective voices of Japanese non-state actors, in February this year, JCI submitted a message calling for the enhancement of Japan's Nationally Determined Contributions (NDC), and in May, another message calling for "Green Recovery" that contributes to the transition towards a decarbonized society to the Japanese government in order to encourage dialogues between Japanese non-state actors and the national government. Upon the "Online Platform Ministerial Meeting", we would like to deliver the voices of Japanese non-state actors to the world.

The spread of the COVID-19 infection has already taken lives of many people and has seriously affected the economy, corporate management, employment, and even social life both in Japan and in the world. It goes without saying that the most important thing right now is that not only the national and local governments, but also non state actors such as companies should take all possible measures to stop the spread of infection as soon as possible.

While prioritizing these urgent efforts to address the coronavirus crisis, what we must not forget is to continue and strengthen efforts to overcome another crisis facing humanity, the climate crisis.

The stagnation of economic activity caused by the spread of infection is predicted to curb recent energy consumption and reduce carbon dioxide emissions. However, what is needed to overcome the climate crisis is not a short-term emission reduction due to reduced economic activity, but a continuous and substantial reduction in emissions that is compatible with economic growth a transformation into a decarbonized social and economic system.

If the efforts to tackle the climate crisis are delayed, natural disasters that threaten human lives such as typhoons, heat waves, droughts and floods will become uncontrollable. In addition, climate change is predicted to lead to the spread of pre-existing infectious diseases such as malaria and dengue fever, which could again cause the immense impact that the world is experiencing due to the COVID-19 right now.

□ NDCの強化

COP26に向け、再生可能エネルギー目標と排出削減目標の引き上げ

ロ 脱炭素化と両立するコロナ危機からの回復

化石燃料から脱却し、脱炭素化に貢献する回復策を

□ Race to Zeroへの参加

日本の非国家アクターのゼロ排出に向けた行動の加速に貢献

9月3日までに、プラットフォームウェブサイトにて公開予定



Race to Zero - 宣言から実行へ



気候野心同盟の設立



- COP25議長国のチリの主導により、2019年9月にニューヨークで開催された 「国連気候行動サミット」で発足。
- 2050年ネットゼロにコミットしている政府及び非国家アクターが参加する 連合体
- □ 65か国が2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを約束し、70か国が2020 年までに自国の行動計画強化をするか、すでに強化を開始していると発表
- 102の都市、10の地域、93の企業、12の投資家が、2050年までのネットゼロを発表。



COP25で参加アクターを更新



- □ COP25会期中、12月11日に気候野心同盟の参加アクター数を更新
- 120か国とEU、15地域、398都市、786企業、16投資家が2050年までにCO2 排出ネットゼロを宣言。



Business Ambition for 1.5°C

BUSINESS 1.5°C

- SBTイニシアティブ、国連グローバルコンパクト、We Mean Businessが共同で行う企業向けの国際キャンペーン
- □ 2019年6月、企業リーダーに、1.5℃目標達成のため、2050年排出実質ゼロに向けた行動を呼びかけるレターが出された
- ロ それに呼応する形で、8月24日時点で274企業がキャンペーンに参加。うち、日本企業は、味の素、アシックス、アスクル、キリンホールディングス、国際航業、丸井グループ、野村総合研究所、小野製薬
- 参加要件は、1.5℃水準のSBT取得または2.0℃より十分低い水準のSBT取得+2050年ネットゼロの長期目標のいずれかで申請



C40 Deadline 2020



- 気候変動対策に取り組む大都市の国際ネットワークであるC40が提供する都市 向けプログラム
- C40に加盟するすべての都市が、2020年末までに気候変動対策計画を策定し、 実施し始めることを目指している
- 参加する都市は、2050年までに排出ネットゼロと2030年の中期目標を設定し、 2020年末までに気候変動対策計画の策定にコミットするレターに署名
- □ C40は、気候変動対策計画の策定のサポートを行う
- □ 日本からは、京都市、東京都、横浜市が参加



Net Zero Asset Owner Alliance



- □ 国連環境計画金融イニシアチブ(UNEP FI)と国連責任投資原則(PRI)が運営する機関投資家向けの取組み
- 機関投資家に対し、投資ポートフォリオを2050年までに排出ネットゼロにすることにコミットすることを呼びかける
- 8月3日時点で、28の機関投資家、運用投資総額5兆USドル(約525兆円)が 参加
- 参加メンバーは、企業や政府への働きかけを通じてコミットメント達成を目指すことが求められる



気候野心同盟から生まれたRace to Zero





- 気候野心同盟への非国家アクターのさらなる参加を促すとともに、非国家アクターの意欲的な取り組みを集結するための国際キャンペーンとして6月5日に開始。
- □ 気候野心同盟とRace to Zeroの参加は連動。新たにRace to Zeroに参加する 非国家アクターは、気候野心同盟にも自動的に参加することになる。
- □ UNFCCCが主催し、気候行動ハイレベル・チャンピオン(現チャンピオンは、 ゴンザロ・ムニョス氏とナイジェル・トッピング氏)が主導する。
- □ 立ち上げ時点で参加する非国家アクターを合わせると、世界のCO2排出量の25%近く、GDP50%以上をカバーする。



Race to Zeroが目指すこと

995 Businesses
449 Cities
38 Investors
21 Regions
505 Universities

- COP26の前に、脱炭素経済への移行に向けた機運を作り、「非国家アクターがパリ協定の目標達成と脱炭素と両立した回復のために団結している」と各国政府に知らしめることで、各国のNDC強化にも影響を与えることをねらう。
- □ 気候野心同盟への参加に求められるのは、2050年ネットゼロの誓約のみだったが、Race to Zeroではそれに加え、2050年ネットゼロ達成のための計画、実行、公開が参加要件。
- ゼロ宣言から実行にただちに踏み出し、できるだけ早くゼロを達成してほしいという期待が込められている。



Race to Zeroの参加要件

口 最小要件 (Minimum Criteria)

1. 誓約: Pledge

組織のトップレベルで、遅くとも2050年までにネットゼロを達成することにコミット

2. 計画: Plan

COP26の前に、ネットゼロ達成にむけて、特に短中期でどういうステップを踏むのかを説明すること。また、2030年までにCO2 50%削減に見合う中間目標を設定すること。

3. 実行: Proceed

設定した中間目標および2050年までのネットゼロ達成に向けてすぐにアクションを起こすこと。

4. 公開: Publish

少なくとも年に一度の進捗報告をすること。またできる限り、UNFCCC Global Climate Action Portal < https://climateaction.unfccc.int/ > を通じて報告すること。

参考リンク: https://unfccc.int/sites/default/files/resource/Minimum-criteria-for-participation-in-RTZ.pdf



Race to Zeroの参加方法

ロ 団体として参加

1. パートナー

最小要件を満たす非国家アクターを構成メンバーとする団体

2. サポーター

構成メンバーは最小要件を満たしていないが、そのメンバーにRace to Zero参加を促したい団体

ロ 個々の非国家アクターとして参加

最小要件を満たし、いずれかのパートナー団体のメンバーとなることで、Race to Zeroに参加。申請を受けた各パートナー団体が最小要件を満たしているかを確認・判断。



Race to Zeroの全体像

995 Businesses

449 Cities

38 Investors

21 Regions

505 Universities

参加者の追加

2050 O SON THE TON THE

サポーター登録

パートナー登録

受入パートナー

企業

- · Business Ambition for 1.5 C Our Only Future
- · The Climate Pledge
- Certified B Corporations
- the International Chamber of Commerce Chambers Climate Coalition

都市・自治体

- C40 Deadline 2020
- · Science Based Targets for Cities
- ICLEI- Local Governments for Sustainability

投資家

- Net-Zero Asset Owners Alliance thtt 小
- 地域・州
- Under2Coalition

大学

- Global Universities and Colleges for the Climate
- Second Nature

パートナー団体に加盟

4要件の確認

非国家アクター

企業、自治体、投資機関など

参加の呼びかけ

サポーター

- Business Declares
- Stiftung 2 Grad

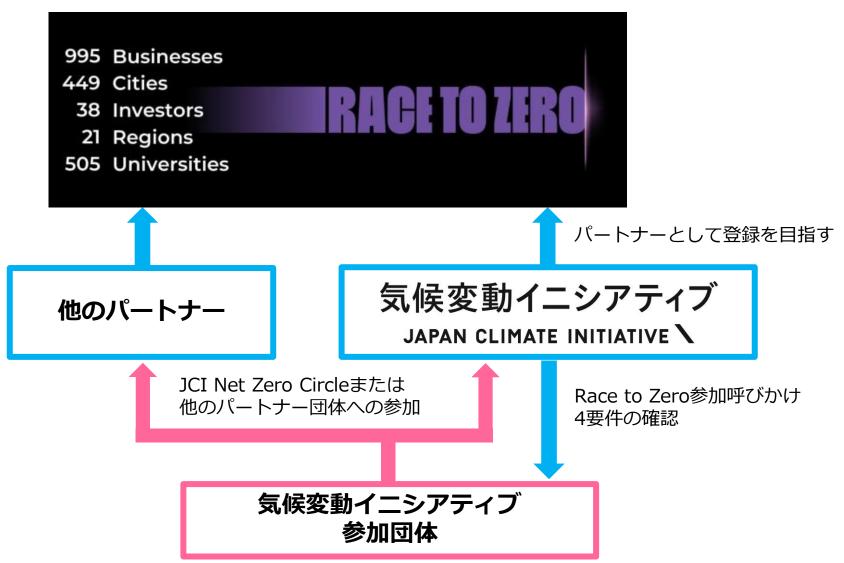


日本からの参加状況

- Business Ambition for 1.5 C Our Only Future 味の素、アシックス、アスクル、丸井グループ、野村総合研究所、小野製薬
- □ Fashion Charter for Climate Action アシックス、ファストリテイリング、YKK
- □ ICLEI- Local Governments for Sustainability 91自治体が掲載(2020.8.18時点)。 (なお、環境省ウェブサイトで公表されている「ゼロカーボンシティ」は151)
- □ C40's Deadline 2020 京都市、東京都、横浜市



気候変動イニシアティブの参加





Race to Zero November Dialogues



- 2020年11月9日 11月19日にかけてオンラインで開催
- □ 2020年中の非国家アクターによってなされた気候変動対策の振り返りと、1.5°C目標の実現に貢献する政府と非国家アクターのコラボレーションが生まれることを目指して、各国から多様なアクターが参加し、様々なオンラインイベントが行われる予定
- □ 詳細がわかってくるのは、9月以降となる見込み



まとめ

- □ COP26に向けて、グリーン・リカバリーに関する非国家アクターの声が、プラットフォームウェブサイトに集まる。日本からは気候変動イニシアティブがメッセージを提出。
- 2050年までにCO2排出量を実質ゼロとする目標を持つ企業や自治体などの非国家アクターが集結する「気候野心同盟」が基となり、「Race to Zero」が始動。
- Race to Zeroにより、いち早いゼロ達成に向けて、「宣言」にと どまらず実際に「行動」しているかが可視化・重要視される
- □ COP26に向けて、気候変動イニシアティブなどを通じ、日本から も多くの非国家アクターが参加することに期待





ご清聴ありがとうございました

これからもご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます

https://www.wwf.or.jp/join/ https://shop.wwf.or.jp